

知的障害特別支援学校における 「さわる」を取り入れた美術鑑賞の実践的研究

【本研究の目的】 「主体的に学習に取り組む態度」を養う美術鑑賞の学習モデルを視覚障害教育での「触察（以下、さわる）」の手法を取り入れて検討する

【今年度の目的】 中学部美術科の授業での美術鑑賞における「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の検討

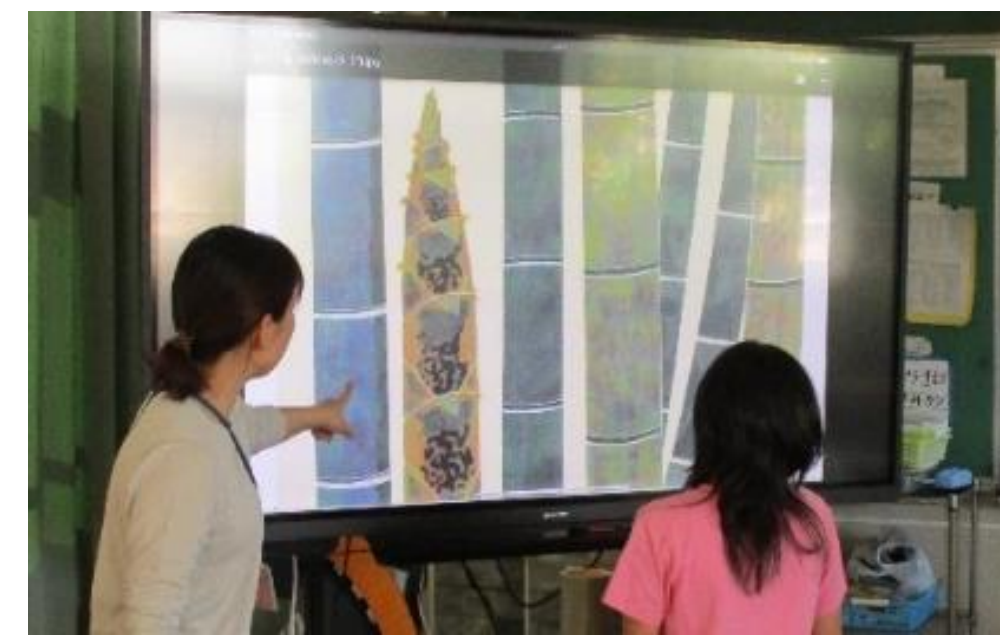
【研究方法】

1. 対象：大阪教育大学附属特別支援学校
中学部美術科の授業

2. 内容：表1の通りに授業をおこなった

表1 令和5年度 中学部美術科「さわる」美術鑑賞 実施内容の記録

	実施時期	鑑賞作品	生徒
1回目	令和5年 10月17日	美術作品	1班：1～3年生（5名）
		触図	2班：1～3年生（5名）
2回目	令和5年 10月24日	美術作品	1班：1～3年生（6名）
		3種類の竹	2班：1～3年生（5名）



福田平八郎《竹》



触図



3種類の実物の竹

表2 鑑賞ルーブリック（新関・松岡，2020）

鑑賞学習ルーブリック					
コモンルーブリック					
観点	レベル	レベル4 ☆☆☆	レベル3 ☆☆	レベル2 ☆☆	レベル1 ☆
(A) 見方・感じ方		作品の主題や造形について、作品にまつわる知識や他者の見方・感じ方に刺激を受けながら、自分の見方・感じ方を分析的に表明している。	作品の主題や造形について、作品にまつわる知識や他者の見方・感じ方に刺激を受けながら、自分なりの見方・感じ方をもっている。	作品の主題や造形について、自分なりの印象をもっている。	作品について興味・関心をもったことを中心に、自分なりの印象をもっている。
	(B) 作品の主題	作品から伝わる主題をとらえて批評している。	作品から伝わる主題について想像し、説明している。	作品から伝わる主題について想像している。	作品について興味・関心をもった部分を中心に、意味づけをしている。
(C) 造形要素とその効果	(C)-1 形、色	作品の中の形や色に込められた意味や特徴をとらえて、批評している。	作品の中の形や色に込められた意味や特徴について説明している。	作品の中の形や色の特徴を指摘している。	作品の中の形や色に関心をもっている。
	(C)-2 構成・配置	作品の中の構成や配置に込められた意味や特徴をとらえて、批評している。	作品の中の構成や配置に込められた意味や特徴について説明している。	作品の中の構成や配置の特徴を指摘している。	作品の中の構成や配置に関心をもっている。
	(C)-3 材料、技法・様式	作品の材料や技法・様式の意味や特徴をとらえて、批評している。	作品の材料や技法・様式の意味や特徴について説明している。	作品の材料や技法・様式の特徴を指摘している。	作品の材料や技法・様式に関心をもっている。
(D) 作品にまつわる知識	(D)-1 歴史的位置づけ、文化的価値	作品が美術の歴史にもたらした意義や文化的価値を理解し、批評している。	作品が美術の歴史にもたらした意義や文化的価値について説明している。	作品が美術の歴史にもたらした意義や文化的価値について想像している。	作品が美術の歴史にもたらした意義や文化的価値に関心をもっている。
	(D)-2 社会・環境とのつながり	作者の考え方や作品が社会や環境に与えた影響について理解し、批評している。	作者の考え方や作品が社会や環境に与えた影響について説明している。	作者の考え方や作品が社会や環境に与えた影響について想像している。	作者の考え方や作品が社会や環境に与えた影響に関心をもっている。
(E) 生き方		作者が、自分の考え方や世界への関わり方に影響を与えることを実感し、自らの生き方につなげている。	作者が、自分の考え方や世界への関わり方に影響を与えることを実感している。	作者が、自分の考え方に影響を与えることに興味をもっている。	作者が、自分の気持ちに影響を与えることに興味をもっている。

3. 手続き

1) 「思考・判断・表現」の学習評価の検討（表2）
授業動画を基に生徒の発言記録を作成し、新関・松岡（2020）が示す「鑑賞学習ルーブリック」の項目で生徒の発言を分類した。

2) 「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の検討（表3）
文部科学省（2017）が示す「主体的な学び」を基に「さわる」美術鑑賞での「主体的に学習に取り組む態度」を定義し、その定義に基づいて、美術鑑賞時の行動記録から「主体的に学習に取り組む態度」を抽出した。

表3 「さわる」美術鑑賞における「主体的に取り組む態度」の定義

文部科学省の定義		「さわる」美術鑑賞での定義	
主体的な学び	学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげている。	主体的に取り組む態度	作品に興味や関心を持って、対象物を触ったり見たりして、他者の見方・感じ方も受け止めながら粘り強く対象物と向き合い、自分の見方・感じ方を形成し、それを他者に伝えようとしている。

【結果】

1. 「思考・判断・表現」の学習評価（表4）

「(A) 見方・感じ方」「(C)-1 形、色」の2観点ともに1回目よりも2回目の方が学習評価のレベルは上がっていた。

2. 「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価（表5）

「自分で〇〇する」と「見比べる」の2観点の行動にまとめることができた。

表5 「主体的に取り組む態度」の学習評価の結果（抜粋）

主体的に学習に取り組む態度	生徒の行動	
	1回目	2回目
自分で〇〇する	・自分から触図を触りに行く ・自分から作品を見に行く	・竹同士をたき合わせる ・竹の中に手を入れる
見比べる	・触図と作品を交互に指す ・作品に描かれている竹の子を頼りに他の竹と触図とを見比べる	・竹と作品を交互に見る ・竹を作品の前に掲げて見る

表4 「鑑賞ルーブリック」における学習評価の結果（抜粋）

	鑑賞対象	学習評価		生徒の発言
		観点	レベル	
1回目	触図	(A) 見方・感じ方	1	・竹と竹の子 ・お家みたいな窓がある
	触図と作品の比較	(C)-1 形、色	1	・(触図の) ぶつぶつが (作品の) これ ・(触図の) これと (作品の) これの色が似ている
		(C)-1 形、色	2	・(竹の表面が) イチゴみたいでこぼこしている ・この (作品の) つぶつぶはカビかもしれない
2回目	3種類の竹	(C)-1 形、色	3	・(緑の竹は) 太陽を浴びている (からこの色になった) ・(竹の) 白色は寿命を表している
			2	・行き止まり (節) の形が (これとこれで) 似ている
	竹と作品の比較	(C)-1 形、色	2	・きれいな緑 (色) が似ている ・(竹の) 太さが似ている
	作品	(B) 作品の主題	2	・家族 ・ジジババと大人と子供

【考察】

・結果1より、触図や竹を触ることで、触覚で変化を捉えた部分について「なぜだろう?」と自分で問いを立てて考える生徒の姿が見られた。また、注目する部分を触覚によって自分で限定することで、その部分が何を表しているのかを思考し、判断して言葉や身振りで伝えようとすることができていたと考える。

・結果2より、手に取れる対象物を鑑賞する過程で、他の生徒がどのような行動で鑑賞しているのかが見ることができることによって、鑑賞している行動を真似る姿が見られた。これは、これまで難しかった鑑賞する過程を知ること、学ぶことができる機会となったと言える。

・今後は、「さわる」過程を入れなかった美術鑑賞との比較を行って、どの程度の効果があるのかを検証する必要がある。